

B型肝炎、肝臓がんとB型肝炎ワクチンについての情報提供

持続感染によりB型肝炎、ひいては肝臓がんの原因となりうるB型肝炎ウイルス(HBV)感染を防ぐことができるB型肝炎ワクチンは、平成28年10月より、1歳になるまでの児を対象に定期接種化されました。そのため、多くの現在の大学生が定期接種対象外であったワクチンですが、体液や血液を介して感染しうるため、コンタクトスポーツ選手や医療従事者(実習生含む)への接種が推奨されているワクチンです。接種にあたっては任意となりますが、下記情報等をご参考いただき接種をご検討ください。なお、ワクチンは医療機関にてすぐに接種できない場合があるので、希望する場合には事前に「B型肝炎ワクチンを接種したい」旨を医療機関にご連絡の上、ご相談ください。

記

1. B型肝炎、肝臓がんとHBV

B型肝炎はB型肝炎ウイルス(HBV)が感染することで発症する肝臓の感染症です。B型肝炎には、成人が初めてHBVに感染して発病する急性B型肝炎とHBVに持続感染している(キャリア)が発病したことによる慢性B型肝炎があります。慢性B型肝炎を治療せずに放置した場合、肝硬変、肝臓がんへ進展することがあるので注意が必要です。日本では130-150万人がHBVに持続感染していると言われています。

2. 感染経路と予防

主としてHBV感染者の血液を介して感染しますが、感染者の血液中のウイルス量が多い場合には体液を介しても感染します。予防には血液や体液になるべく触れないようにすることが大切です。他人の血液・体液に触れる機会が多いと考えられる医療従事者やコンタクトスポーツ選手等にはB型肝炎ワクチンが有効です。

3. B型肝炎ワクチン

B型肝炎ワクチンは1歳になるまでの全出生児が対象となる定期接種ワクチンです。また、B型肝炎キャリアの母から生まれた児は母子感染予防対策として保険適用でB型肝炎ワクチンが接種できます。定期接種の対象期間を過ぎた場合には希望者が全額自己負担する任意接種となります。3回の接種が必要となります。